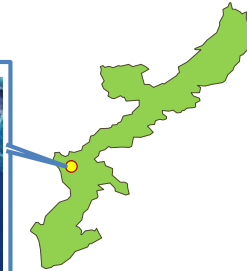
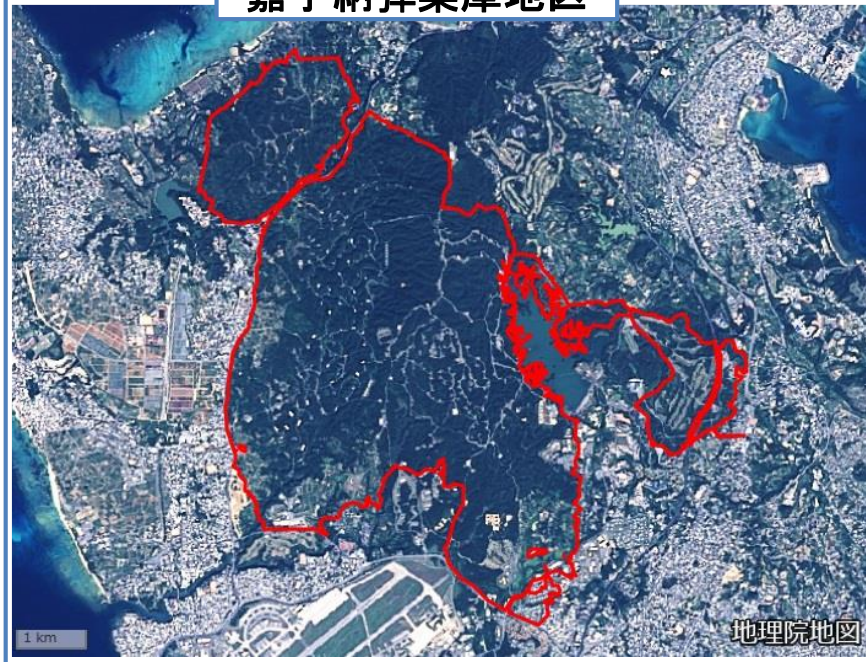


- 日米の施設・区域の共同使用は、より緊密な運用の確保、相互運用性の確保といった観点から重要な取組
- また、十分な継戦能力の確保・維持を図るために必要な各種弾薬の取得にあたって火薬庫の確保は重要な課題



- 嘉手納弾薬庫地区内の火薬庫を新たに自衛隊が共同使用することとし、具体的な調整を開始（既に平成15年から、嘉手納弾薬庫地区の一部土地を、火薬類の貯蔵施設として共同使用）
- 改修工事等を経て令和7年度以降使用開始予定

嘉手納弾薬庫地区



参考

- 国家防衛戦略

<2 日米同盟による共同抑止・対処

(1) 日米共同の抑止力・対処力の強化>

「日米一体となった抑止力・対処力の強化の一環として、日頃から、双方の施設等の共同使用の増加、訓練等を通じた日米の部隊の双方の施設等への展開等を進める。」

- 防衛力整備計画

<7 持続性・強靱性 (4) 施設整備>

「スタンド・オフ・ミサイルを始めとした各種弾薬の取得に連動して、必要となる火薬庫を整備する。また、火薬庫の確保に当たっては、各自衛隊の効率的な協同運用、米軍の火薬庫の共同使用、弾薬の抗たん性の確保の観点から島嶼部への分散配置を追求、促進する。」